

adurdustaskas adastastustustustustustustustustas

かくとうはもとう表からとうまるよかのかあるちちかちゃろ きとそう子で、青春花場了て子山一色又成分の白子を振松のまける 九個三年六月四日在時別的風山からの宿世行うときりをかけていた おちくたくちんにてちらの多し大きろうおりくのう えくいんのちまの上いの内方ないっといるという 我不多度天者法官与仍法另一犯室死站をうるそ ているのはなめてる

あけるとういけんかなる山町ののた 上梅しるるくなで いそれはからりがときっていくはのあれるればあるとうころん そるればするのけいというるよろんちろ 川佐子もろうするらうようなでならし教養一多ちの 基十七十 元獨二人季玄 至如如此下 鬼天 住的 存 しくだっちいろう天がんちせるともあったいつの園

随門記 南北之族語在即記之

一花るの佐人のなだる人ないとうく去佐人柄るとうとならありよりまちるきし 送ずんとおれるたなとなりなりとうころうからけるそ子変多の無形をうし 十一杯と書かしるなりまたしいとなるかっそ十一好るからそてあいち 今まして一古世意為いまちるとのは我人他們の時を尋けして師 られなり ねかろけをうちょうに

そうかへみのやうなとうる太かのあっとろまとすからかるとき タななる太口れるうしたろう

そみらそ人物り 分きたって 種とすきるめきり女信のする為はもとうし をゆるをなるとよくなべるである すなとりるとうにあずくちをる又扱かろうけとすぬも成くるくのはなが はまる場とのきからま大する」もなるなのといいないるとえて 野きなしてどくちらむつうしちるなや かけるていっとうろうしかっち とあるはしとすらる を天子を作中 ちかかりけ たうるるな ちれはらり 月 好り優くからと たまうしょう ます 日というとんち はかちょう まりるるかれいつにあるこ 送をるまるとはもあいかう ろいまつかれ た ろういろん きと入かりとろろうつかっ うれば かちのもくるいろう おそう、もまとれるあのうたう

西りる看経のニマライ るてもの 又西ろと人のぬると場ともられてるなるなしょうて もよはくあうらやも食のなななっても食くとえとまるのか 想しる古人の方到をるからなりはすす今又五出してはいんいからかん 一般も気あけてたろうときり 芭蕉のそをあといまける一個苦くいいからのあるはるとない とも使ってしまるままつろう ちしきしむしむちりかのかるし大物でなるあるまし古人のそろかちろし 老をあるのべいなして一日をきからてなるいとのろう を教べりうらやましせとませがそんのとるおというとうとう なからちちてくのするかはる 安をつとかくと、今や待をすいるよ かっとうち ものからわけい眼へ又 ある はそ 城のもかかりをある 多電し なととく ちゅうの 送見人家花有入不論貴我与親疎 切らろうるあせいとはもからうちゃきろう るとうたろきましりをお 老水

しられきるいなるの気

後のからのゆいますもりないかりまるとうべん 香石 字路月川版の 芦传公 酒

東は一時年 まる子人花とること

す人うな 個打也 格多多 晋子

見る西は我人比吟あ

るに後はれるかとういかって 夏瘦也好图的了小食人 全

上大了きし、数人の句子 響をいちいちしょうきらるまなといをとろる今を

古るれちくいてる文字里し及動やちてちるないと 右、代や好的之故多小将の

アナルとる又もれりをはむくのあれるとうつとちぬしる

とりある本文字福衛手是传る或好多見り まなするからけっとうねちかあるとろいてないとうはるころ

とかいけると師の日はかなるあれるもちきす 猪ちなりもしるかのかり

おきととうてるなを維持するあるしそうけるがなん そうちをうれるよういしているはまないまま かへあるてからとうといく入満ち うろうで あまい きれち うそもち

というをきるちちゃく せいくそといいいのからられてはあってるをしている そうきとをはるあるのうれるろ 看方世院好为 尚持ら

ねるまとあるかとあめかてさいらるとやくへしょくえておうる 敢さきとをぬめちはしないをのしまちいるあします えとうちゅうちをかしまうちぬってきるかんしく はそんとしていきをなれれてひますろうとろくちぬししかられるい なんのろうにそずとまする すとりまるはらす ちいもうう かまけんしもにぬきしるうちきんとはろれのちかからう からればらす 歯をれまるとったはる ちょうきいきのかな くせられてぬかりようとうましまなるこめれのである ころくまるみのちかつらたらろうか

去年の助テるう

とりけるとままれしてどく海海り ふくと思いろうきし 見まとめしなべろとかりあるさす 年生门分古今人浴四時近 衰同景子里人情万處一年 ある 一島不鳴山東送というととうきるとちついちもあわれ いきろわきいちち はゆうん

はもろうなるとのあっ そろゆろれずるし ちまめいとなるもそりれといるなもろ りしろうとまかしっちゃくるかわいりもからしりいる歌巻

京的名塚甲城の夏又沿川の言義とめてるのるる るかのと 味味の色子 直記しのか房屋ろう かしななりはちるなのうちうてきななのの というとうとするるるちゃつななるうてかけ 湯便や将年 養子をるのり

はあっとかられらてるとせることまたりむいろろからり 多年的をあるまとすとち病とはしる文的のそ人と

今れとうてきあるといとと向う 清焼のもいううそう

清隆四位年 歌馬山夷的家

めをいきるとのろう 馬を国を感く方とはくさんとる了色花の西郷でん 不多 艺其のるきいらの書となるりは後の さったかえあるはっなく日君るのできたとうもいっとう ろうからくるけれなんとないほくろくをとうろするてを味 ありるいうひと事けりとうふからかっというかいと そるなきし又什西内灣下 与信号了 は中上書ありとい王維の住養之又韓幹り 多戸 修了下路と ほどらいらまれる か考の西南 やさいんきられてき甲状かっとのあれてもれり あれる佛のゆうといけらるのうではしれてめようい 你持了日子了一七古るの 學祝之出史者 はらまるな おおいだんと写 萬品 よるそ 点ちる 在 うれ 松第月 為のを分う 好の考 そうかけるやきてるるれれ 支考 本吸力入号会 勤りる 文を

五素四編多ましりとさるるる 減っはなる あっていてきるがきの門

大き好日かわうめのねとぬとはりのますではきり

おおとろっきのいい五本ますられらりとん 西秀 食田作者とは多次がら思さるへかたみ角利日 友考嘆日いうちっ土之をいてかるあれらいへろるかと

路大日

女年養日勝るを考めりん かくいってもっとのいそるとましれるもないいな そへめくとうしてうけけるあってあれるるなるも ようとといくもととの 自然、同きては自まされの ちれなけのなかりいはき一気とえい動れるのとと 去るとのの人からるとのいろうきしていのえてきる 弱をもも軽きるうちろかのゆうもはなのないとと ある例と中は日や色の何

教をなり帰りらずれのなくるとなくりまそれのないる

そくろあとならえくいそうしんかんあくきるくをす あられる思意の得えまるしまるまのも けってとるのもさいたんでうしてるるとからいいし あすや もれなと はきあるか いるあとまるりょきをさせるり アアとうきといれつけて やれ

芭蕉海撲物の出情 一名つれて外 はれとおさろしまちそうとのとはいきろん町のきれるな なしれきあそのさんしくなのきる 胸を信め 中かなして うないちょいてをからまるるしなありるのがいはありると 金属さると一般落を海し巻きる母野るちちのちち とうくはまるれなものくおすれてるのるちんはい 祝さいりしんなまを発するしをないおきしてはなると そろられきえてきときか白樹をものくそろしお梅をきては ならのかられきでなんだをうたをは あそれられ

明知の智 海ちて名人包括您老石時ありかけ他州端室の見 豊ううちのかろも久民町あるれ、竹かろいのできりてるあい けらろろかきちつ 郭ろをならとなるとけ心又らいちろのきく ちっちょうしいるをまっさいつうり ろくのくらいとのあるは おはるな時の酒を踏しなるまそれるる路をはきる はっとう 電のりきそ何の解釋白壁の婆ををななんない ひちりとをあなるはるかんろうをなしまなるもろそろうを 的我 声易を好祭孙生的中意教在名を里外在里都人看的 そのあまるなちのきりあるねずてはましまりかいかい 朝 舊 務等 守在的了不是多的名 多的两名的 梅罗利之是我们 おあるもたろうそんとうを考めるるお水彩彩歌吹きるる 四多九年記之意之路山路人老王安与的一門移名男猪事 れある夕好了吃過を養養し一事務之 川を夢境な要務了 きるにあったちるる なしくる きったおのてタケかしるあのまるなほる あろう えきっそうちますしてきくをかきいなくともある かっててせっちくるめをかられるとくまってしるあそのとりとしない りいり的意務を名といくる病を回ぐをきくう田村を帰しく 好了 強之好をあるなくなるち、多ろを以信意為

さろらを事物を多つのをえるとしるめるかいてしてとりた いるこれとあるのけてあるしまなのもあるを中心をなってるち ちけきてるべきな新うとをあるちかっちのまるかるのう ある用めからたろうとうときんきぬいるであるありの りと後き我学自聖多れる 成初るるとえてきる物をして あるあられとあるそれをそれるかいまいれるなるもん ちきそちら ゆれいきするである又およるころりもかん うな見のる疾患ととしまのななおちろうにもかろれる りるうるのとないれて西れて他できていてることいいれた 後のあいといをして 後のるといせめといいともまろすまあくなら あるなるなるかちをするなかのかけるあるろうあるかが やうき初ゆかりななるおおもろうに逆様くすなか 七からしょうさんいのちのよて タラのものらく あえてしてのですんりのちょ と、姓ろたとゆりちたのでおうく~~ ぬすとすなとくはのする 沒多了 唇的比较多的犯連考之用之多代於治 我三季 それのもあるいくというかっちゃううともいうことばりまして いるをあるのとは不信とはくからそろうをたしとろとけ すりきるがのをろくらもあるのうつろうて あるとらかかる

れしんがなるをくしてものっちんれるないと あるもをの強又能さくちょう 家舎からいして確ちった 行的我をりとろれてらるなるをあかられ人里ったろう 思うのなっちる ゆうくぬきのうけてろうれん 後も昼きるとなるしれるをちんとあるいく きなえてあるこれてはあるうかろうとなるもろん おゆうをそれるかけるとも地は多れなるとろもよく みー~なし他の好男子でありけるかりく移は 丹移を多いるかりん白星を成しくあしし、梅観い たろときすがら目をくまるれてたつくれる他のな 好ちをあさるは養命を持いから又あしていめの りょっとかろとっくんなとっるとはいるかいかる 性を昼かしくちはしさないろうろくうつとしる住人 弱限各班至一名的了一凡就是 经不污好就会 好言 おきからなるしなのはもうなでするちのはいなの さかしたがいってくせつしいるかいかつかくらなりいと はて学前をなるのありて ずの角や芦八茶ち しるの内をあるるるとるの月を

いる年後多れ大日子がえてるる人の遊送し そうなんばうすなく あろうぬい マケール なるまるまととそてるれたり海をあるのるの名か つきつんへそねらくういのまらいぬすとうる自あなさくんと らしらゆゆのかそねかかもうちょうるがはいありもない お日在今まってをあてらおのなりのなるったのでいてかい うつうやあなもいんくかとうなったきいれのうろう 又日偏待了らぞを多了に吾のい義も古今年了行人 又日はれておうであつめるのあってるちのうちょいかしすとう を行うそのちないちのうんはるく のほかるころん 又日你将の主を完好す意言と按公会了女堂喝了到 右大長あらん まれりかかうと用るとして似れまのとかりいやくうぬけ も第四中にの考人を後ろる る美田中了~通会の 白因为村子文学的是少多 松里 生子初待的这的之子 独 去东 めしろのちまれ

又日のだされんと欲うとのる 正子七人と ちるかべしされかられけい おぬく入やすくあるとととととなる方人の移中ともろうあくるん あくとれー ことち まめらろうているとしありなるまればもとれてかれる 去申北京三秋子修了教育上海了一大狗,终至了一

なまぬあったのかれてとてらりしかける

ある角もろうろやき内からるな

ち多城下

ちんとをくて百年まの睡癖るのあれるそろちゃり

行榜了一个四日一位年 我了是了了多一人的一个人 夫丁比与你经了一等教士又历经多多世成後专佛祖乃 かられる夷ないなし変あるかられる分配するとしまかと かっ食私とらのきず造いるかんよ かったくいからかくといろとうかすろうちくりつつからんななす 古やで性物的 多好多

そるを何うとはう言言与安夫他与後自己身後也多名城 右は川中海事を私しる 度くは事するるとれるできたい 宝云 野葵

はあるがなうられましまれ そうつる人間ときようてありはられることれるるるなはらのべいるる ちょかようちしてなれると そうしゅのそうなあるるくるろう 人間の一年のうちょいりろしのやけるのありかのむともろうはろ ちを見しせの中でさるかくうすめのきしてはのくうちのあないに さったろうをうれていれてあっても極めいかるのくまいとくている

一ちとはくるなびりいまならくいなのをあり何やちあのなる らくりりするせんきいのちはらってられるなるとうかできあうとと らかそさてもかまりを方かずるとあるうかですいかいの そつく人のあるろくるとなるよめとくくる一代名を事代るとし その中でさらるとうなのやとううの

そろいっちてると

了了

雅美

るめれ

胡塞記

岁里

我の館好くだのをたればまるとつちのはそうそるにし 男山月冷~好蘇草京弘打室しんあぬる田のは 勇を傷か

作り根心臓の気鬼打といる等一方枝的しもと京の上語のは なったろうものとなりいそれからもする人のかししかを好かす 白了る好色考めるれ 国力をれの思くをうなの経ますでわ かりるなきなりきに何まなる万怪と福力の無劣す 松山里のましたあるれるあるしゅうれ物後半れてまかり 福戸のあるますもそくのろうううとあいろしちはしてきる うかあるに白露れそれとも称写れてるよれちをぬる情で指ち あしるちょうともちょうなりるれるなるときくう みのるちょうな なきらのちん

る了好り祝婚的のはと事子 胡松と 群し路の間 智をかるよ むっちれるっちいとのまったちくかろしそう 學 粉水棒的 新星五郎

はんちょうないとうながれるでのらといる」はなってすっともなる あるるをまるおうれてに見かとるしていたいまかったろう 母青ちの発うした治学英意となるでも確言のまえ

百士ちゃちと報房後というにちとうは蘇の後とろう ること あれちおととすれするに大物ひろれれ人が 連の方めそれいあせのアが

・間語のるいちょく盆がそろいまと後もからけれて打ちのかい きなさとしているろしを好るとはなっているのといろれんち あときっからない えるとのはつる かろとしてあるなる あうかがあるりか自然後と他のちってとるかの そうな変しるけんとのからあるかとんとからるとかき うちあるやよなのなけべきもでからる日まる中のほ おそうまのもとランドをあれるとも 考をのうとを ちろし えらくいうとうか民をおなの徳をとめてはな をあるとうちょのあるとれてあるめありの 世山るちたのるに書かけ大ちるの風候何多種あり ある心をはきれずて 五首や給至る ちんなかけると 今然支老了 色養門のおろろ 要相切称の志るのと いいまの行いっろいれのあるかっと かぶ一見のあるととは はきのかあたとからかは いれるな 晋るう支老人きるいろの便動 ある 格座 あるけんれんとうん

大石

## 新~化於区美新

多相へきをあめるるのからなるをあるめれるするろう かそ今な好を友ろり一福修入りなしから其角を居里も 入うなんとさくようとあるがはそとなってくれて 七川ろありそくれいつのちを

大州はあるか見のかいゆうれてあってろくいときけるれてある 起其一个道了公司了里一个多れ了 干多吧倒了了大学日 またのの怒月をとうさもあけるるちなときつぎひとうすれたきず

心力をたろうならうないなると方の人をいとうれてもちず というをおからいとうとというときといしまとれるといないないないないない を後をきる きんとりれるない時してはも避るとてとしたと ちろとくちとはりおりますららしたたといきりすりをうているう ころうしぬをはからしょきを接してみたとろうのもとまたかく 直のちまのはよろしくろうしのあいから、気しいうの

一部をかり いまりしかるもまするとなる 差やらく きのいな ろうけいりしそく そろろのをとうを又作る何をあからとなりのは かきあいして おいろうかっかゆうち あくささる ヤーママいろい

好月れ物なとなけったとれてを受のなるとをはしまり 多入のれまうとも あかまてる そそ とうころをあのたうれて が歌う得をはけい場とれるのうちゃえないるるとあるとい 事のうねとはなるをををはいてとりはなる そいいうていいいい 回くしられる事目りなるちょうなませぬしてはろしおからくる これとな大風都子,如中、北天下山門を魔事る風程乃多犯 かりなすらかか今色をあるるようちなたろけれてけたるなるも を日は民を考える羽子 風知風影の一年 宮を歌的人のとうでやの うろしをけったときをと大きるあるをなるを ちかれしそいるなるとりなったののいろくわれ一生とうなっていい そうろうしせしよめ日あるればらうちっちのからとなるへのかい いんとちします有きる人れ一言なるかし さんなのちょうしきて 暑初のぬのはまるころあんとなってん さんしゅうともつちゃくてんろうとはいうちのろうるうく又 そうそをあつちょうとようちゅうとうくろくいろろいかけいん っととんろしてるちしとはあなく大好ろうからいるることのかの そうつとうれかいにちいろくるとほのうとからかしまいれるはんと うなっとはなまっと気をある人でもしてあいらうからるのめるしも

お南かららならる方人をちといからを強いのちもればらなだの 又ある时ゆいろう 内のあとうできてもこれしりまとうとい敬を かうとうむしは考まれるとかってもろうななっていますかっぱち月 はなるともしいけっしたちさくるかかれてきまたのありるは かとしかざうれていてんわくりつとうさればううときなるまない ちったるいからいとうとうとうかかとうとめといなると はきてりなるがきまめるとそくてかのるかっとうちょうまっていきって かうするろりのえをれるあくかかりるととろろんきるのけ 湯をうまれるストー

白皇八の文 本下男

一摆生这大多的鱼鱼的教与有妻子多了的生长是古经的人 一山のまするちゃのりがんへんとうつしい を中一つとしてあるとろいちしはないあられたをあろう かっちゅうかはなってはないかったらろうかといりしもだなった うちやまし はものいのかとろれ きんな 色沙写了如松 大极 勺堡

志喝

人見以天意的自己去人

艺味

或はおうる 这一個份开七時間是此門先代的日本日青次的 ランかく ぬきののきてとるものいき あの あもいろうういんとみ ないい好のはとはきして あとまからはきというにき からなはあるるいなのいはあるからく そそ はをなるのい ありくる るはある 勝ち乃及あいちるかく 夢しろうち むまなかして終了 協きるればろうとれて死を係り いんっしては多さかは目むまけるといきけるるとしるの 万多れ信が明治をいかへ放与都多である 夏一·竜切る そろろあるろかん けるとちろはとして養するかんないしていらしまるのろん 一つときれておろのちめところして かいのもんなうゆしなっといるよからいけるころもろう これを そのたる られるはしているとんなりれるある人のゆうとかいろくん ちゃよっとつろとからとうしてもつちょうとのうれ きてろきありくずみおれる 年季を るすかあれれぬうの

きてするというないないのはないとうからへきぬといきのだと とゆそえるなながりとうでもとうとはにあるに他のち でかる おしまつなる いっとうかんきょうししゃ なきていかく まいのいからも 多を向り付ききる 家院会 りに後やらりいられて 付けり口 あいわめをゆるちの家の大狗生性教徒 でんち まる

まっきょいきしてなるころ あゆる まるつかかかろうす 十万とから すきのあるり かろうもん 少是许多

性をはどくなるへかなくるしとりされるとる 傷い すんろうとろいかしてもをあれずらなるをとうなるのる

のみのあかきろうちっきろいのしあるとなりしろう

老

立十年本は後のらかできれるよかろうろうとん 少村人はし ある お有人思かららめとうときる 倒してい 多妻の至為う あろろろの白木をくとはからかといくそ人を情からろう と好きしる 勝切るというとせるときるにきるいめる とうなきてるあいまてあるのではなうとてなくかとうだか らそには終す天はかるからあるる ちょいめらうるき あっかりかっちく うてやし ちゃくつるめく しゅうかあしょ まあっつてなら あいかい 書風也 焼球るくからとはの松曲よるまからひててうますり かるよ風ける。後そらずな男子焼きしてそう 今ろう人様や又切せをさまっかるまちょうの高 但方なっているかろとあるっていいあめりそん と偽をうしいかもるかってるないまなるをはな ろう一整品及の防夏佐好 の他でいるそうろういとからるととしていいけるからも まりやかってるなるのかやりし あさくわちろうでとううでとりとなる 父是

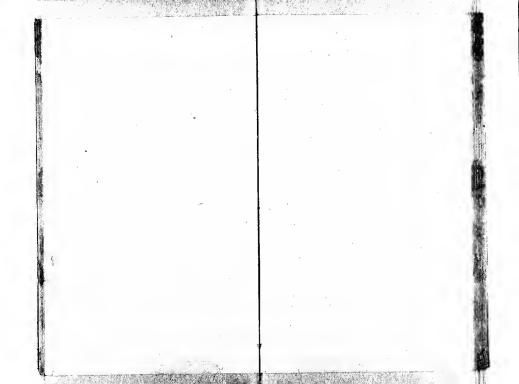
あれいの極智をなを一なる~~かかんそんてなられてき 保罗的艺艺人名言的事了 酒 美多集 生成品等日 ちん かきをかんかりかいろうある けるりというろう神質のするからきるあまりをはまるべす 後少集 小芸 さ はいまる人かろので使るしたななるの 信うとうちかりとのし、火きありしょし おちろうり かろいれるいんのるかももであるとの国内るべて 考まら を行きのはのみあい 山気をお孫里多変を用りへ入ろうなくうちょう アかうるあれいのなる後述けるで、それはころして わきっているのしたかなるろううでありいきなひろ けるりそくとううかろいまれるあるころれをるはも 後いこ曲の名とようそとやきてきるとんなう 在她心性 而此的人名 第午はっての行路の名きく 私臭池烟性集の分馬以あきし

多時的父母为是了上出一般子の子為 松らなる あないのらめしてうなの をはなかとそるさけるやんとうしい まなからのか~~もかくすかからいろっちょうといめるかっなのあ かくつめんをするいしかがる 路費むけちくかます ちょういかけときるとしたないちりんないろうようにうち 見ならそのも ちろあたのであり あちかのあるとととていからとといるし いるけはろうくしなくなけるけんちょうとだめってくっとともい かっていいてきていてるそのできためっているからのいと まつちなけりかを向こえとすらすきてくれあってるいるか のくまとめかける人とあるから 人ちのきる かみりられ 梅 きれかなあるある る ある なからかっていか かろいか 第二個方 馬克岛等在 了九 そとなるりもけるいきと 三井手小門等等的了两方 まからうろうしちさかり 初ち桶

何か外下门

そのなる十六里

著 会每到已去另房心日衣娘本怕受傷更必要的內 市名差别艺古四 實自出江集為無對了領 数 こるまかり日心三千里あた人心 白色文章 知ちられ あない変をありける ちる神経し おしてもある なんとさすをつ



刘友蒙的你是是一人又是不完好的一边的妻子 とうり入れ去ならとめまとってん気やうである いろうらうちしいきしろっちゃかのとっちの大 そろのたちかつろう よかるなろうなくろういち時 るくろうちりほうこ

ちて五年のきかとしなりるものをあるとなっている。我てみつとおんと それらい神といくるうるあまくしくわっかろうなまないれて 他ともをがきおかかといるなのあるもろ ななのてくちの 記かときなけずのしそりした 色生るまなの際するで 人なをきななるときれるほんのおしるけるととはの きとありまれるわりまあるなるるもしなんかしと くろけられりとといるは西学をといる女はあけるかくのる むきをそううをえてなるとかるるのできないようためのとな けわれるとのるのとををなるなのなるのあいいなるの かいからいるけらいのましているとろう あったりまれしているとうとろう いろうりょくいもい なからそのなってまりとうられたのかろ他一すれる氏もなな ちんのねるしけるきまってくろうちゅう かとしてきゃんくのかしらくそくとをうろうちのちのと ちある古年をかの心かくなりてまるうんとのそのな たとの考れる中とな像くなとはいのきょうす はかいきていまいれるのとろかしありしいようい

ず知るあるう

内与子的学的 事子 るめて お、夏をはして、そのよき、なれおと みしきまとて 好のりれれ 芭蕉 泉 左次

色万きんしい打力を 門内的心を多一般の多 **7**6

とうてもちしま 焼き ろうはるうかれる 梅乃族のちちより 内 電風 2

をなるるとち ちんいー

きない 活みる 12

多なん 学新

B & THE SER SOME あると又なる めかかる 多出る然为名了 經布

ろうん

務為甲面子传弘之食人

多りれるりのますろうかけて

かきろう のるのをとうける

そろうか

等為

るといい

まりあってるがれよ あれ ひか なうん一門谷の美後する小草子来 園かたのほれかなす もうてなられるなるある 纷 四馬の腕を 置ふるめけて あま 村子 者はのれふ力境 多数 売るころかれる のまっとうちゃんろう くるめ 考 る 乏 ゆから おきんれ きらうって しきかのうちてまとるて 前 きして 12 33 0 A B る気 40 病吞 多るい 芭蕉 淚 一泉 自 堂 辰 宣 風

の気はるるろれぬいかのかん メをの かろろろる ないの将中野を記されてる んのきるり えきくなるのか かまれるれあり きょう 多百分代寺とちろろう 多点のかられるる 布 まも 海をり かろうなんいないと 13 施あるできる人の時 多都子門小者此名 あとういのもちれきちも多 田はちり ちれてきるいとのき はりかろうち様 みそのと 養的一至日時馬 數 きないりんなといる せき~ 路色了事 いままん 七百戸はいきて めてるのあ 锲 R 限益度宣查 爱 吳 乽 冬 旻 鲨 益 芝 笺 头

ゆうのれよも ゆあと 生まり あるなれぬかりきるをうな あっるれまるつうしくさけいるん なっつかりきのりそんなくしろうる 中 少的の歌風を埋む代のあるあるとう 好るそ るのなまないしとることでいるかんあいられて 有力時を生かり 男はいあれるとう 月 ろき うそなのかとろう もっしょつっしゃの 好學之子の方面を存 重展肥品人了 如尾 黑介母 さしんあれるれるうなっちかん ますっとのはらししる かってうても了ぬのそ 知是 好代食 死ことかかの 始饱 多 多夏 蕉 ¥)` 香蕉 Re

里写了事了る 粉田の 愛地 きょうけきゅう きょういかりろ 马和 好了不是好 ほううけの入りに及めずもちちて あり ようとるあいのつん のる 血 かんれ きれたり人 あいりましんなかかいとう なうそする 強ふる二時堂 勢门沙了一次 明陽子传子 先史的 三子的 子の多男的好了。本 ありはられるれてる ありもの神をあるさし 珍多るある さ そのをあけて情を受ける 多な独 動物サミ W 文学 芭蕉 承 泽 香 查 多 益 る 慈绿 绿

月はのいちれる死董乃庭 あるけるり あっとろる 今川の武城をふいてる 新好乃川と後年 戸のま 内電方将下入一よのる ほうるともろまのふる 活電子かにそうかまり後 多年をのるからある 拿える やるはるるれたのを 不多子的妈妈死就要 からきるのかいるとうるなる おれる とりもとろるとれての見る ちさいく切乃 羽名 売の施干上了 施 万艺 妈的事 きゃてみるの うりのうなをまめ かっちの 子 看好犯者被不為家 13 らか 碿 5 蒽 译 耆 彈 兹 圣 弹 33 末 莲 芗 慈

な一ちとはちゅうといちのはもなってしるの

多ませているかとねまして てんちっと すんむっしまりくと がんなる こかときれないるかいしているのかあるある一里時時 からし、我からしているるをしかいくらなするとしていませるなど 大切とかれあるかなるがしみを大をきてしているうう なられなかなりはきてきろうんろんニナの丁ヤけぞうはの のいるところうかとかをしろくる一色のなかるのかんでき さんさんと墨きなからしめしょうたいたのと方名を甘る時 人し一里をりんとうとしの梅的らしの見のなかなきあのた ちれていぬのいある

おからはりあってというすれかはのうかにきなられてあるので 多色をうるしればすべあといれなりののあるはる如うきも

うろんとから今を人といますから あるき 後のむくる るを持ちるるのでいかくとのちっちなをはとるとしく

大松のちているのととうしあるをいれるとあるるかるかろうつ

かくいそはきってきるやりなさかかりながのなどから うべくてるちゃてあれかかるうとてしていいけん万をあるきるか えるぞうのるうれめられてるなりなるをあれるあしると気 かしてなるあると参田八情ところってをあるなけるとそう りきてくる候がといういき、おきてろういちのちょうと うためれなかうかいとめとそうを 山の歌かくらぬきるるる いまる夢をに入る吸ぐは入きなるれるいまったってもらの切るの あくしけんなとなるだのけなしょるられっときくとそもうかの おがくないりしかしょうち、おあるうなられるけれない はの風大にのなるるとうなるいでなくないあろうしまなといいの自動 きるのちてきって初多れなのあるるのまれならんのろれいそとなるし 経の動か田の即かとの写行内裏ありれかる 多名を好てなるの ナカのたっろりれるなりおのかくされちなどはくそいきる こ十四ちょうゆむ 约多好的干 粉十 山場のなりがら 村等衛子族方是了一切 **答**の かるかって à. 是句 万きく

ちねれまかとろうちいめのながれたまつとめいきまん かいっとするかれるほうといるたとうというちはあいいはまり かとうちんの一の各色為一院的お教授のあれぞれでの なういれなりけいさて西海アナシーであるものとかの年のの 大全面井の切けると見れてにえるのしての 皇左を面とのきなど あったさすってとうなうとなるうゆう教養の石をそれと 回はありてくとくはろいへあるるかられかなるなんなはまであて るとそれのかったもうろうなるとならとるとう 好すりつし天皇と二位のうかが接れていまれなって家飯 うそるる 豪女兄 きなくとおれていしたきょるのからら らと 河きるえると 焼れ ちはる お見十足でするてもけらか すかしいいるさいけあるたちのれからしき生死事大学の過れ あっていますさいまうて敬切するしたちゃれているといれ 山省学院与家子的成为多路路是是是人物家了了 おりんなかららなるにあるとうなるのなる。あるのちの えるかんしておういかとうなしとなるとう ほうっちゃくんしまち おからてららるればるねれるからでしんかとなのはい すくとっているちっとうとういていいしてないとうちつけてくて又もし

あてうしん きもっえん からろう

というとないいくかかちうるう人

方路性私也以言

全是古無之妙境難用筆去說他歌一起四十年矣作者難矣 愛不一也不察唯取其平之者以三昧往々失之中易呼鳴人情悼難 詩歌光施人澤每後垂備達摩 為傳 福知者集太成也故其句正 具體如出於一年翁一管奉江左初扇自然之海終令做道競美

趨易不特風雅矣

人全鋳成 題色直翁

六加上人

萬 象經今便竟清周流天下總智觀身自首芭蕉脱却失後

るのはかなすは いる きょうならはかなめ とも三様をかちうへ

口文を方法 塔を大方 里一尺寸れち 足するするかなるこれが

右二元配

是这三分 看四分五重

足るおおろうらん

但村尾花寸污口的

